

第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成28年9月30日（金）5校時
児 童 男子12名 女子16名 計28名
授業者 両川 真利 支援員 永井 麻里子

- 1 単元名 広告と説明書を作って、3年生にしょうかいしよう。
教材名 「広告と説明書を読みくらべよう」（東京書籍 4年上）

2 単元の目標

- 目的による表し方の違いに興味をもち、文章を読み比べ、広告や説明書作りに生かそうとしている。
[関心・意欲・態度]
- 広告と説明書の書かれている事柄や表し方が異なることを、文章の目的と関係づけて読むことができる。
[読むこと イ]
- 広告と説明書について、書かれている観点に沿って大事な言葉を押さえながら読むことができる。
[読むこと エ]
- 接続詞が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解することができる。
[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ク)]

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○目的による表し方の違いに興味をもち、文章を読み比べようとしている。	○広告と説明書の目的を押さえ、それに応じた表現の仕方や工夫等についてとらえることができる。(イ) ○広告と説明書を読み比べる時の観点到って、大事な言葉を押さえながらまとめている。(エ)	○指示語や接続詞は文相互の関係、段落相互の関係を端的に示す手掛かりになりことを理解し、文章を読んでいる。イ(ク)

4 言語活動とその特徴

本単元では、「C 読むこと」の「イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと」「エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」を重点的な指導項目とする。そのために、言語活動例「記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用する」をより具現化し、「理科教材の広告と説明書を作って、これから使う3年生に紹介しよう」という言語活動を設定する。

具体的には、「本学習材で取り上げられている広告と説明書を読み比べ、それぞれの目的や表し方の違いについて捉えた後で、その学習を生かし、今まで使ったことのある理科の実験器具の広告と使い方の説明書を作り、3年生に紹介する」という言語活動である。子どもたちにとって身近な題材であること、これから使う3年生に向けて作るという目的意識が明確なことから、主体的・意欲的に学習できると考える。これらの言語活動を通して、身の回りの様々な広告やポスター、説明書などに目を向け、目的に合わせた表し方の工夫について考える機会となると考える。本単元での広告や説明書の

構成や表現の特徴を読む学習をもとに、実際に広告や説明書を作成するという言語活動を通して、「目的による表し方の違いや述べ方の工夫をとらえる力」を確実に身に付けさせたいと考える。

5 単元について

(1) 児童について

児童は、3年生に『ほけんだより』を読みくらべよう」で、書き方の異なる「ほけんだより」の2つの記事を読み比べ、意図に応じた事柄の取り上げ方や説明の仕方の違いを学習してきた。そのことで、書かれている事柄や説明の仕方の違いから、書き手の表現の意図を考える力がついてきた。しかし、読んでほしい相手によって文の書き方が変わることは理解しているものの、目的に応じた表現の違いについて考えられる児童は少ない。

これまでの学習を見ていると、自分の考えを意欲的に表現しようとする児童が多い。しかし、自分の思いや考えを伝えることはできても、それを受け、自分の考えと友だちの考えとを比較しながら感想や意見を話すことができない子どもも少なからずいる。

そこで、本単元では、児童の発言の意欲を大事にしながら、ねらいにそった交流の場の位置づけと、学びの成果を振り返る場の位置づけを通して、めざす子ども像の具現化を図りたい。

(2) 教材について

本教材は、「広告のちらし」と「取り扱い説明書」という実生活に即した2種類の文章が取り上げられている。ここで扱う広告は、不特定多数の人にその事物のよさを伝える目的で作成されるものであり、キャッチコピーや写真などを効果的に配置している。また、説明書は特定の人にその事物の使い方を分かりやすく説明する目的で作成されるものであり、図表を使ったり、分かりやすい書き方を工夫したりしている。取り上げられている2つの文章は、同じ商品についての説明的な文章でありながら、書かれている事柄や説明の仕方、写真、色、レイアウトなど大きく異なっている。

よって、似ているようで似ていない2種類の文章の書き方や内容を比較・考察することで、児童は、相手と目的の違いによる説明文の書き方の違いを捉えることができると考える。また、習得したことを自分の表現活動に活用することで、理解を深め、より実践的な力が身につくと考えられる。

(3) 指導にあたって

第一次では、教師が作った広告や説明書を提示し、児童にとって身近なものの広告や説明書を作ることを伝え、目的意識や相手意識をもって意欲的に取り組めるようにしたい。「広告と説明書とは、それぞれちがった目的があり、目的に応じた工夫がなされていることに着目しながら教材文を読み進める」という学習の流れの見通しをもたせたい。

第二次では、「広告」と「説明書」についてそれぞれの目的と書かれている内容を読んでいく。そして、観点に沿って何がどのように書かれているのかを比べ、広告と説明書の違いについてまとめることにより、広告・説明書の特徴や構成を捉えるようにしたい。また、それらが目的にあわせた表し方となっていることについて、書かれている事柄の比較を通して理解させ、広告と説明書づくりに生かすことができるようにしたい。

第三次では、自分が作りたい理科の実験器具についての広告や説明書を作る。同じ理科の実験器具を書きたい人同士でグループを作り、グループごとに記述内容等を検討していく。そして、完成した説明書を交流することを通して、広告や説明書の目的や書き表し方の工夫を確認し合う。以上のような単元を構想することを通して、「目的による表し方の違いや述べ方の工夫をとらえる力」を

身に付けさせたい。

6 指導計画（全9時間）

段階	時間	主な学習活動	評価規準
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生で学習した『『ほけんだより』を読み比べよう』の学習内容を想起する。 ・広告と説明書のモデルを見る。 ・単元の流れを知り学習の見通しをもつ。 	<p>【関】今後の見通しをもち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 (行動観察、発言)</p>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">理科の実験器具の広告と説明書を作って、使う3年生にしようかいしよう。</div>	
第二次	2	<ul style="list-style-type: none"> ・広告と説明書を読み比べ、気が付いたことを交流し合う。 ・広告と説明書に書かれてある事柄を調べる。 	<p>【読イ】広告と説明書について、それぞれに書かれてある事柄（商品名、商品の特徴等）をとらえることができる。 (ノート、発言)</p>
	3 4	<ul style="list-style-type: none"> ・広告と説明書について、読み取る観点に沿って、書かれてある事柄について読み取る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・商品名 ・商品の特徴 ・各部の名前 ・使い方 ・安全に使うための注意 ・使い終わった後にすること ・キャッチコピー 等 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの観点について書き表し方の特徴をまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ①言葉の使い方や説明の仕方 ②写真や絵の使い方 ③色の使い方 ④書かれてある事柄の順序やレイアウト </div>	<p>【読イ】広告と説明書それぞれについて、観点に沿って書かれてある事柄を読み取り、書き表し方の特徴をとらえている。 (ノート、発言)</p> <p>【言】接続詞が文と文との意味のつながりに果たす役割について理解している。 (ノート、発言)</p>
	5 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・広告と説明書それぞれの書かれてある事柄や書き表し方の違いを比べる。 ・広告と説明書の目的表し方の関係についてまとめる。 	<p>【読イ】広告と説明書の目的と表し方の関係について捉えそれぞれの目的や相手と結び付けながらまとめている。 (ノート)</p>
第三次	6 7 8	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が3年生に紹介したい理科の実験器具を決める。 ・広告と説明書のどちらで紹介するか決める。 ・紹介する理科の実験器具の特徴をつかむ。 ・広告と説明書に盛り込む事柄や書き表し方の特徴に留意して書く。 	<p>【読】広告と説明書について、観点に沿って大事な言葉を押さえながらまとめている。 (ノート)</p> <p>【言】指示語や接続詞は文相互の関係を示すことを理解し、文脈に沿って指示語や接続語を使っている。 (ワークシート)</p>

9	<ul style="list-style-type: none"> ・作った広告や説明書を読み合い、目的に合わせて書かれているかを確認め合う。 ・学習活動全体について目的と照らした振り返りを行う。 	【関】 作った広告や説明書を読み合い、目的に応じた書かれ方をしているかを伝え合っている。 (ワークシート、発言)
---	---	---

7 本時の指導 (5 / 9)

(1) 目標

広告と説明書の書かれてある事柄や書き表し方の特徴から、それぞれの目的や意図について考えまとめることができる。

手立て①「ねらいを明確にした交流の位置づけ」

- 【ねらい】** → 広告や説明書の目的と書き表し方の関係について、交流を通して自分の考えを確認めたり、自分の考えを深めたりする。
- 【方向性】** → 意見を出し合い、一人ひとりが自分なりの考えをもつ。
- 【子どもの状態】** → 一人ひとりが考えをもっているが自信がない子ども、考えをもっていない子ども、自分の考えに自信をもっている子どもなど、混在している状態。
- 【形態】** → ペア (子ども一人一人に自分の考えを表現する活動を保証するため。)

手立て②「子どもが交流のよさを実感することができるようなふり返りの位置づけ」

「広告と説明書の書かれてある事柄や書き表し方の特徴から、それぞれの目的や相手について考える」ことについて、以下の点で振り返る。

- 交流することにより、自分の考えは怎么样了か。
- ・誰のどんな意見が参考になったか。

(2) 展開

段階	主な学習活動	予想される子どもの考え	指導上の留意点
導入 5分	1 広告と説明書の特徴 (書き表し方の工夫や書かれてある事柄) について確かめる (広告) ・キャッチコピー、商品からイメージする写真、カラフルな色使い、見出し (説明書) ・使用上の注意、二色、それぞれの名前、使用方法		<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習で捉えた広告と説明書の書き方の工夫について掲示等を使って確かめる。 ・理科の実験器具の広告と説明書を作って3年生に紹介するために、本時ではそれぞれの書き表し方の工夫について捉える学習であることを押さえる。
	2 本時の学習課題を確認する 広告と説明書は何のために、どのような表し方をしているのか考えよう。		

展開 25分	<p>3 広告と説明書の特徴（書き表し方の工夫や書かれてある事柄）の違いの理由について考える</p> <p>(1) それぞれの特徴の違いの理由について考える。</p> <p>(2) 視点をもとに違いの理由について整理する（個人→ペア→全体）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何のために作られているか（目的） ・どんな人に見てもらおうのか（相手） 	<ul style="list-style-type: none"> ・見る人が違う。 ・目的が違うと思う。 ・役目が違う。 ・書いてあることが違うから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広告と説明書それぞれの特徴をもとに、このような特徴で書かれている理由について考えたことを自由に発言させる。 ・視点（目的・相手）を与えて出された意見を整理することができるようにする。
	<p><広告> 目的…興味を持ってもらい、商品を買ってもらおう 相手…多くの人</p> <p><説明書> 目的…正しく安全に使ってもらおう 相手…商品を買った人</p>		
	<p>4 広告と説明書が目的に応じた書かれ方をしていることを確認する</p>	<p><広告> ・多くの人々の目にとまるように工夫されている。</p> <p><説明書> ・正しく、分かりやすいように説明している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目的と相手に応じた表現の工夫がされていることを確認し、広告と説明書が目的に応じた書かれ方をしていることを確認する。
	<p>5 広告と説明書の目的と表し方の関係についてまとめる</p>	<p><広告> ・広告は、多くの人に興味を持ってもらい、買ってもらうために、キャッチコピーや写真をつかっている。</p> <p><説明書> ・説明書は、商品を買った人に正しく安全に使ってもらうために、使い方や安全に使うための注意が詳しく書かれている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広告と説明書の特徴をもとに、「広告は〇〇（相手、目的）のために、△△（商品の特徴）のような表し方をしている」の文例を示しまとめさせる。
終末 15分	<p>6 本時の振り返りをする</p> <p>7 次時の学習を確認する</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・本時で身に付けさせたい力に基づいて、視点に沿って振り返らせる。 ・次時は、実際に広告と説明書を作ることを伝え、意欲化を図る。

(3) 本時の評価の観点と、評価規準

<p>具体的評価規準 評価の観点</p>	<p>概ね満足できる状況</p>	<p>支援を必要とする児童への手立て</p>
<p>広告と説明書の違いについて、それぞれの観点に沿って表現の工夫を考えながら読むことができたか。</p>	<p>広告と説明書の書かれてある事柄の違いや表し方の特徴をもとに、広告と説明書の目的（相手）や意図についてまとめている。</p>	<p>書かれている事柄や表し方の特徴から、読み手にどのような効果があるのかを対話により考えさせる。</p>

(4) 板書計画

ふり返り

広告と説明書の違いについて、それぞれの観点に沿って表現の工夫を考えながら読むことができたか。

相手 多くの人	目的 きょう味を持つてもらい 商品を買ってもらおう	広告
商品を買った人	正しく安全に 使ってもらおう	説明書

広告
 それぞれの特ちょう
 キヤッチコピー、
 商品からイメージする写真、
 カラフルな色使い、見出し

広告と説明書は何のために、どのような表し方をしているのか考えよう。

説明書
 使用上の注意、二色
 それぞれの名前、
 使用方法

相手
 広告と説明書を読みくらべよう

目的
 多くの人にきょう味を持つてもらい、買ってもらうために、キヤッチコピーや写真を使っている。

説明書は、商品を買った人に正しく安全に使うための注意がくわしく書かれている。